

日教上人字は智雄、靜明院と號す。越中の人なり。幼にして京都本禪寺の日宏に師事し、智辯に長す。慶長二年越後本成寺に入る。同八年より建仁寺の西來院に寓して大藏經を閲し、且つ讀み且つ抄して倦むことを知らず、三年にして業を卒ふ。慶長十一年池田輝政の室徳川氏、其母の爲め播磨に青蓮寺を創建するに及びて其禮請に應じ、同十三年寂す、年五十七、寺に藏經閣覽の目錄を傳ふ。

此畫像の異とすべきは、紙本に油塗料を用ゐて、陰影を描ける徳川初期の洋畫なること是なり。神田男爵家亦これと同種の洋畫を襲藏す。一は西洋武士二人の圖にして、一は教師と二童との圖なり。今此畫像を以て彼れと參照するに、手法款印共に相同じきも、署名は故らに省筆を用ゐ、且つ款印に掩はれて辨識し難く、前者は信水に近きも、後者は信芳に近し。恐らくは作家の名、前後に依りて異なるらんか。我文學部に藏する京都所司代板倉勝重及び木卷・即非の畫像は並に我彩具を用ゐたるも、洋畫の手法を交へて陰影を分てるところ、亦同時代に於ける洋畫の影響を認むべし。(三浦)

日教上人畫像 播磨山崎町青蓮寺所藏



日教上人畫像

關山日教尊聖人

慶長十三甲九月六日遷化

(京都帝國大學文學部所藏寫真に據る)